

野中葉研究会 インドネシア・セリブ諸島での「IN360 Project」成果報告書

申請者：環境情報学部 3年 河野 美紗子

1. プロジェクト参加者

指導教員：総合政策学部専任講師 野中 葉

環境情報学部生：5名

総合政策学部生：2名

外部協力者（本塾メディア・デザイン研究科修士課程学生及びバンドゥン工科大学生）：6名

なお、助成金の対象となる本塾学部生 7名の氏名は使用明細書に表記されている通りである。

2. 行動経過

本プロジェクトは2月26日から3月7日にかけて行われた野中葉研究会の特別研究プロジェクト・インドネシア EBA プログラムのサブプロジェクトとして位置づけられている。本プロジェクト実施地であるセリブ諸島には3日間滞在し、小学校で IN360 動画とそのアプリケーションの紹介だけでなく、地元の自治体やモスク、宗教関係者や島民の家でインタビュー調査なども行った。

現地での日程表は以下の通り：

3月3日：セリブ諸島自治体及びモスク訪問、島民へのインタビュー調査開始

4日：小学校での IN360 ワークショップ

5日：小学校での IN360 ワークショップ及び文化交流、マングローブの植樹

3. 成果

本プロジェクトの目的は IN360 動画とスマートフォンを用いて海域の荒いセリブ諸島に住む小学生等に職業体験を行ってもらい、フィードバックを受けると同時に、外部協力者と共に現地を用いて島民にインタビュー調査を行い、交流を促進することである。現地の人々との交流は主にセリブ諸島の一つであるプラムカ島で行われたが、初日にはプラムカ島から凡そ 1.2km にあるパンガン島で自治体関係者との意見交換会を実施した。意見交換会ではセリブ諸島の人口比率や宗教比率、民族比率などの住民の基礎情報から、ジャカルタ州政府との関係性、ジャワ島からの移民など多岐にわたって説明を受け、質疑応答が行われた。プロジェクト参加者はセリブ諸島の教育機関や大学進学率など、本プロジェクトに関連する問題についても積極的に意見を交換し、その上で本プロジェクトをプラムカ島で行う意義を自治体関係者に改めて説明した。その後、島に滞在する3日間を通してプラムカ島とパンガン島の両方で島民へのインタビューを行い、子供の教育についてどのような考えを持っているのか、また高等教育を受けさせるつもりがあるのかなど教育関連の質問を中心に、幅広い世代に意見を聞くことが出来た。インタビューから得られた解答によると、プラムカ島に住む保護者の凡そ4人に3人が経済的な理由から子供を大学に通わせることは出来ないかと答えた。この背景には、島民の多くが比較的収入の低い漁業者であり、収入が安定的でないからであることが推測された。そし

て、小学生の凡そ半数が中等教育卒業後は高等教育を受けずに働きに出たいと回答したが、全ての小学生が、経済的に余裕があれば大学に進学したいと答えた。つまり、プラムカ島に住む小学生の多くが高等教育に関心を寄せているが、経済的背景からそれを諦めざるを得ない状況に置かれていることがわかった。また、保護者の5人に2人は大学教育よりもイスラム教の理解を深めることのほうが重要だと考えており、宗教への信仰心が教育にどのような影響を及ぼすのかも知ることが出来た。

2日目と3日目は本プロジェクトの主旨である小学生との交流とIN360動画・アプリケーションのワークショップを行った。ワークショップは当初の予定とは違い、少人数の小学生を対象に、6グループに分かれ行われた。また、各グループに生徒、保護者、教員、動画製作者、バンドゥン工科大学学生を配置し、年代や背景の垣根を超えてIN360Projectに関する話し合いが行われた。

ワークショップの内容は以下の通り：

- ・小学生へのIN360動画の説明と試聴
- ・グループごとの自己紹介
- ・小学生の勉強に対するイメージと、将来についての話し合い
- ・どのような状況においてIN360動画を活用できるかの教員、保護者交えたブレインストーミング
- ・グループでIN360に関する劇を制作・発表し、関心を伺う
- ・ワークショップ全体に関するアンケート調査

結果として、動画を実際に見た小学生等は初めて触れる360°動画に多大な関心を示し、今後積極的に360°動画を体験したいという意思が強く見られた。紹介された日本の職業については、知らないことや馴染みのない職業が多かったためか、想定よりも関心を引くことができなかった。しかし、遠く離れた日本の学生や、会う機会の少ないバンドゥン工科大学の生徒と話していく内に小学生等の学業に対する意欲は上昇したと多くの教員は述べていた。参加した保護者も今回のワークショップで新たなスマートフォンの活用方法や子供との触れ合い方を知ることが出来たという。ワークショップを終えてからはIN360Projectに参加していない野中葉研究会の特別研究プロジェクト参加者も交えての文化交流会を行った。まず日本についてのプレゼンテーションで小学生等の関心を引き、その後に慶應義塾大学についてのプレゼンテーションを行うことによって日本の教育機関について知ってもらい、学習意欲を向上させることが狙いだった。小学校側からはセリブ諸島の伝統芸能である踊りの発表なども行われ、日本の文化とセリブ諸島の文化の相互的に理解を深めることが出来た。最後に島民との交流の一環として海岸のマングローブの植樹を行い、プラムカ島の自然環境にも触れ合うことが出来た。

参加者は本プロジェクトを通じて360°動画の制作方法やプレゼンテーション技法を学ぶことが出来、またフィードバックを直に現地で得ることで納得してプロジェクトを終えることが出来た。また現在高等教育を受けている本塾学生やバンドゥン工科大学学生などの交流を通じて小学生の学習意欲を促すとともに、文化の相互的な理解も深められたことから、本プロジェクトの目的は達成できたといえる。